広島大学附属練習船「豊潮丸」による体験航海

（第２５回広大マスターズ例会報告）

広島大学マスターズ会員　郷　秋雄

１．航海目的：「体験航海」
　（１）豊潮丸船内の航海・機関・観測機器の紹介
　（２）洋上での生物採集：SM 採泥、プランクトンネット垂直曳、ビームトロール
　（３）海洋観測：ＣＴＤ、バンドン採水、透明度、表層連続観測装置、自動気象観測装置、水深・海図情報システム、航海情報表示システム
　（４）海洋生物の分類調査等
　（５）目視観測：呉湾、早瀬瀬戸、奈佐美瀬戸、カキ筏養殖場等
２．航海期間：令和元年８月２日（金）（１日間）
３．航海海域：広島湾
４．参 加 者：総数２９名（男子１８名、女子１１名）
５．世 話 人：池田秀雄、郷　秋雄

本船の通常の乗船定員は、２０名（教員２名、学生１８名）であるが、今回は一般人を乗船させるため旅客船に資格変更し、旅客定員５０名、６時間以内の平水区域航行船として臨時航行を申請し許可を取ってある。旅客定員５０名までの施設、設備（座席、救命胴衣、救命筏、消火設備、その他）は完備している。

体験航海に沿った現場体験と観察ができるよう、甲板上の作業と船上からの観察に重きが置かれている。観測調査体験は、西能美島西の２５～４０ｍ水深海域でＣＴＤによる海洋環境の測定、採水による表層と底層水との違いや汚染度、底泥採取による底生生物の生息状況、ビームトロール及びプランクトンネットによる底棲生物、表層生物の採集等が実施された。最新鋭の研究調査及び航海機器を用い観測・観察を行い、生物生産学部・元教授・上氏の説明・案内を通じ瀬戸内海の漁業資源の現状を学び、里海の重要性に思いを馳せた。短い時間ではあったが、受講者全員、楽しく興味深げに調査観測、機器見学に参加し、日常とは違った体験ができ海の現場を知る第一歩になったようだ。

こうした試みにより、一般市民の海に対する理解、練習船や広島大学に対する認識が深まるものと思われるし、継続することにより更なる支持と支援の輪を拡げることが出来、地域に根ざした練習船、大学として飛躍できる。

猛暑の盛りであり高温高湿度の中での航海であったが、事故・病気等無く諸行事を終え安堵している。受講者にとっては、日常と異なる興味を惹かれる楽しい１日となったようだ。